

県内初の木造GS開設

大間々の赤城興産が大原町で運営

赤城興産(みどり市大間々町、山同輝和社長)が運営する、国産木材を使用した環境配慮型サービスステーション(SS)「スマートエコステーション赤城新田」(太田市大原町)が、1日から営業を開始した。木造のガソリンスタンド(GS)は県内初となる。

同SSは、出光興産(東京都千代田区、木藤俊一社長)が展開する「アポロステーション」タイプ・グリーンで、2022年11月に高知県南国市で1号店を開所し、今回が国内5店舗目。県道桐生伊勢崎線の拡幅工事に伴い、既存店をリニューアルする形で建てられ、赤城興産が営業委託を受け運営を行う。



県内初の木造GSの開所を祝いテープカットを行う関係者ら(太田市大原町で)

約30人が参列しテープカットが行われた。山同社長は「時代の先端を行く全国5番目の木造SSにリニューアルしてもらった。『笑顔が輝く、世代や想いをつむいでいく、スマートエコステーション』のスローガンのもと、地域一番店を目指していく」と新店舗の運営に意気込みを語った。

12日までイベント

12日までリニューアルオープンイベントを開催。問い合わせは同店(電46・6000)へ。

使用されているCLT(直交集成材)パネルは、ひき板を並べた層を、板の繊維方向に層ごとに直交するように重ねて密着した大判パネルで、断熱性、耐火性、耐震性に優れ、赤城新田店では事務所棟と給油場所の屋根に使

用。木材活用により、約100トの二酸化炭素の削減と固定化効果が見込まれるという。さらに、太陽光パネルや、給油時に漏れ出る可燃性蒸気を回収し再利用するペーパーリカバリー装置も完備。開所式には関係者ら